CASBEE あいち[戸建] 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-あいち[戸建]（2009年版）　■使用評価ソフト：CASBEE-H(DH)_2009v1.0_aichi

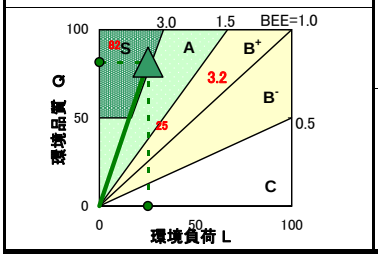
1-1 建物概要

建物名称	環境共生型仮移転住宅		仕様等の確定状況	建物の仕様	確定
竣工年月	2010年12月	予定		持ち込み家電等	仮
建設地	愛知県非都市地域計画区域内 第120街区 第1号 A区画			外構の仕様	確定
用途地域	第1種住居地域	確定	<備考>		
省ｴﾈﾙｷﾞｰ地域区分	Ⅳ				
構造・工法	木造・軸組構法	確定			
階数	地上2F				
敷地面積	232 ㎡	確定	評価の実施日	2010年9月19日	
建築面積	57 ㎡	確定	作成者	斉藤　毅	
延床面積	110 ㎡		確認日	2010年9月19日	
世帯人数	6	仮	確認者	斉藤　毅	

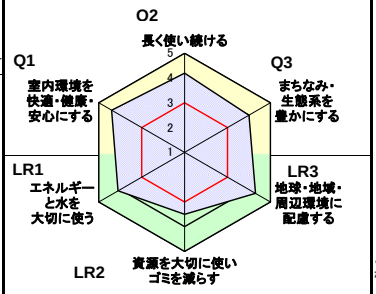
1-2 外　観

2-1 すまいの環境効率（BEEランク&チャート）

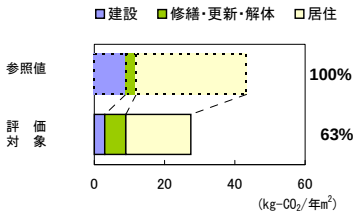
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 大項目の評価（レーダーチャート）



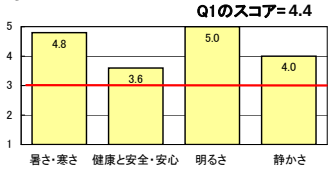
2-3 ライフサイクルCO2（温暖化影響チャート）

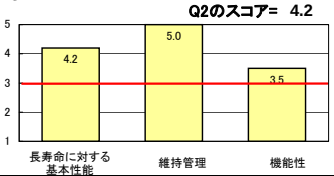


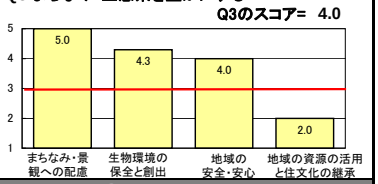
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-4 中項目の評価（バーチャート）

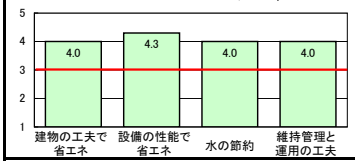
Q 環境品質　　Q のスコア= 4.2

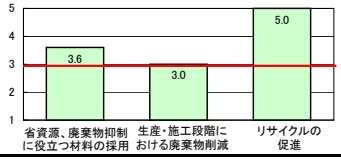


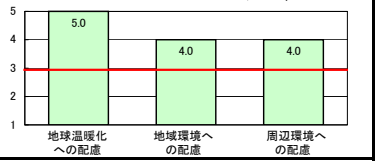




LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.9







3 重点項目

①地球温暖化への配慮

5.0

③敷地内の緑化

4.0

緑化面積の比率
緑化面積／((1−指定建ぺい率)×敷地面積)

48.8 %

②資源の有効活用

3.8

④地域材の活用

1.0

地域性のある材料

なし

地域で産出される木材資源

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
　LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
　Q-2 長く使い続ける、LR-2 資源を大切に使いゴミを減らす
③敷地内の緑化
　Q-3 2.1 敷地内の緑化
④地域材の活用
　Q-3 4 地域の資源の活用と住文化の継承

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency（建築物総合環境性能評価システム）
■Q: Quality（すまいの環境品質）、L: Load（すまいの環境負荷）、LR: Load Reduction（すまいの環境負荷低減性）、BEE: Building Environmental Efficiency（すまいの環境効率）
■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEEすまい（戸建）の場合、BEEH、QH、LRHなどとすべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
■「ライフサイクルCO2」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、QH2、LRH1中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO2の算定条件等については、マニュアルおよび「ライフサイクルCO2計算シート」を参照されたい

CASBEE-あいち[戸建](2009年版)
環境共生型仮移転住宅

■使用評価マニュアル：CASBEE-あいち[戸建](2009年版)
■評価ソフト：CASBEE-H(DH)_2009v1.0_aichi

スコアシート

配慮項目	県独自基準	重点項目	具体的な取組み一覧	評価点	重み係数	全体
Q すまいの環境品質						4.2
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする					0.45	4.4
1 暑さ・寒さ				4.8	0.50	4.8
1.1 基本性能				4.6	0.50	
1 断熱・気密性能の確保			断熱・気密については、次世代エネルギー基準をクリアする。	5.0	0.65	
2 日射の調整機能			南面は軒、バルコニーで、窓はカーテンなどで夏期の日射を遮蔽する。	4.0	0.35	
1.2 夏の暑さを防ぐ				5.0	0.25	
1 風を取り込み、熱気を逃がす			全室に2方向に開口部を設ける。	5.0	0.50	
2 適切な冷房計画			LDK、寝室ともに適切な容量のルームエアコンを選定している。	5.0	0.50	
1.3 冬の寒さを防ぐ				5.0	0.25	
1 適切な暖房計画			LDK、寝室ともに適切な容量のルームエアコンを選定している。	5.0	1.00	
2 健康と安全・安心				3.6	0.30	3.6
2.1 化学汚染物質の対策			住宅全体を、ホルムアルデヒドの発散量が極めて少ない仕上げとしている。	5.0	0.33	
2.2 適切な換気計画			便所は常時換気、台所と浴室は局所換気（同時給排ではない）を採用。	3.0	0.33	
2.3 犯罪に備える			該当する開口部には2箇所鍵を設けている。	3.0	0.33	
3 明るさ				5.0	0.10	5.0
3.1 昼光の利用			居室の開口面積：32.21㎡、床面積：74.53㎡	5.0	1.00	
4 静かさ			すべての居室の開口部に等級2のサッシを設置している。	4.0	0.10	4.0
Q2 長く使い続ける				–	0.30	4.2
1 長寿命に対する基本性能		②		4.2	0.50	4.2
1.1 躯体			住宅性能表示基準の劣化対策等級3を満たしている。	5.0	0.30	
1.2 外壁材			モルタル（左官）、ガルバリウム鋼板等仕上げとし外壁通気を採用している。	3.0	0.10	
1.3 屋根材、陸屋根			ガルバリウム鋼板（瓦棒葺き）を使用している。	4.0	0.10	
1.4 自然災害に耐える			許容応力度計算により、住宅性能表示基準の耐震等級2を満たしている。	4.0	0.30	
1.5 火災に備える				4.3	0.20	
1 火災に耐える構造（開口部以外）			H12建設省告示に該当する、準耐火45分の外壁仕様としている。	4.0	0.65	
2 火災の早期感知			すべての居室・階段及び台所等に火災警報器を設置している。	5.0	0.35	
2 維持管理				5.0	0.25	5.0
2.1 維持管理のしやすさ			給水・給湯ヘッダー方式、排水ヘッダー方式を採用。	5.0	0.65	
2.2 維持管理の体制			定期点検、維持管理のサポートを専門に行なう部署がある。	5.0	0.35	
3 機能性				3.5	0.25	3.5
3.1 広さと間取り			所要の面積が確保されている。	3.0	0.50	
3.2 バリアフリー対応			住宅性能表示基準の高齢者等配慮対策等級3を満たしている。	4.0	0.50	
Q3 まちなみ・生態系を豊かにする				–	0.25	4.0
1 まちなみ・景観への配慮			建物外観、外構への配慮。植栽、設備機器等への配慮。	5.0	0.30	5.0
2 生物環境の創出				4.3	0.30	4.3
2.1 敷地内の緑化		③	植栽面積49.0m2	4.0	0.65	
2.2 生物の生息環境の確保			植樹等に努めている。	5.0	0.35	
3 地域の安全・安心			避難路・消火活動空間の確保をしている。	4.0	0.20	4.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承	●	④	なし	2.0	0.20	2.0
LR すまいの環境負荷低減性				-	-	3.9
LR1 エネルギーと水を大切に使う				-	0.35	4.1
1 建物の工夫で省エネ				4.0	0.35	4.0
1.1 建物の熱負荷抑制			次世代省エネレベルの断熱性能としている。	5.0	0.50	
1.2 自然エネルギー利用			すべての開口部の熱貫流率を2.91w/㎡kとしている。	3.0	0.50	
2 設備の性能で省エネ				4.3	0.40	4.3
2.1 暖冷房設備				3.9	0.27	
1 暖房設備	●		LDKにおいて機器効率が一般的な暖房設備を採用している。	3.0	0.80	
2 冷房設備			LDKにおいて機器効率が一般的な冷房設備を採用している。	3.0	0.20	
2.2 給湯設備				5.0	0.37	
1 給湯機器			電気ヒートポンプ式給湯器を採用している。	5.0	0.80	
2 浴槽の断熱			断熱タイプの浴槽を断熱外皮の内側に設置している。（基礎断熱）	5.0	0.10	
3 給湯配管			断熱外皮貫通部から給湯機器までの配管延長を5m以下としている。	5.0	0.10	
2.3 照明・家電・厨房機器			IHクッキングヒーターを採用している。	3.0	0.25	
2.4 換気設備			一般の換気システムを採用している。	3.0	0.05	
2.5 エネルギー利用効率化設備				3.9	0.06	
1 家庭用コージェネレーションシステム			–	3.0	1.00	
2 太陽光発電システム			太陽光発電システム（1.92kw）を採用している。	0.2	-	
3 水の節約				4.0	0.15	4.0
3.1 節水型設備			節水型便器を採用している。	4.0	0.75	
3.2 雨水の利用			散水等に利用する雨水タンクを採用している。	4.0	0.25	
4 維持管理と運用の工夫				4.0	0.10	4.0
4.1 住まい方の提示			竣工時に設備の取扱説明書を渡している。	5.0	0.50	
4.2 エネルギーの管理と制御			–	3.0	0.50	
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす				–	0.35	3.5
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用		②		3.6	0.60	3.6
1.1 構造躯体				3.0	0.30	
1 木質系住宅			–	3.0	1.00	
2 鉄骨系住宅			–	3.0	-	
3 コンクリート系住宅			–	3.0	-	
1.2 地盤補強材・地業・基礎			–	3.0	0.20	
1.3 外装材			外壁にペットボトル再生品の断熱材を使用している。	4.0	0.20	
1.4 内装材			内装には無垢材、わら漆喰など自然素材を積極的に採用している。	5.0	0.20	
1.5 外構材			–	3.0	0.10	
2 生産・施工段階における廃棄物削減				3.0	0.30	3.0
2.1 生産段階（構造用躯体部材）			–	3.0	0.33	
2.2 生産段階（構造用躯体以外の部材）			–	3.0	0.33	
2.3 施工段階			–	3.0	0.33	
3 リサイクルの促進				5.0	0.10	5.0
3.1 使用材料の情報提供			情報提供を行う。	5.0	1.00	
LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する				–	0.30	4.3
1 地球温暖化への配慮		①		5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮				4.0	0.33	4.0
2.1 地域インフラの負荷抑制			外構の過半を植栽地とし雨水タンク、生ゴミ処理機を採用している。	5.0	0.50	
2.2 既存の自然環境の保全			従前の地形を改変せず、表土を概ね保全している。	3.0	0.50	
3 周辺環境への配慮				4.0	0.33	4.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減			電気温水器は低騒音型を採用している。	4.0	0.50	
3.2 周辺温熱環境の改善			気温上昇を抑える為、駐車場に芝・ブロック舗装を採用している。	4.0	0.50	

■LR1 太陽光発電による補正後のランクとスコア

2 設備の性能で省エネ				4.3	0.40	4.3
2.1 暖冷房設備				3.9	0.27	
1 暖房設備				3.9	0.80	
2 冷房設備				3.9	0.20	
2.2 給湯設備				5.0	0.37	
1 給湯機器				5.0	0.80	
2 浴槽の断熱				5.0	0.10	
3 給湯配管				5.0	0.10	
2.3 照明・家電・厨房機器				3.9	0.25	
2.4 換気設備				3.9	0.05	
2.5 エネルギー利用効率化設備				3.9	0.06	
1 家庭用コージェネレーションシステム				3.9	1.00	
2 太陽光発電システム				-	-	

重点項目スコアシート

予定

■使用評価マニュアル：CASBEE-あいち[戸建]（2009年版）

■評価ソフト：CASBEE-H(DH)_2009v1.0_aichi

環境共生型仮移転住宅

重点項目（配慮項目）			評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
①	**地球温暖化への配慮**				5.0
	LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
②	**資源の有効活用**				3.8
	Q2	長く使い続ける	4.2	0.30	
	LR2	資源を大切に使いゴミを減らす	3.5	0.35	
③	**敷地内の緑化**				4.0
	Q3-2.1	敷地内の緑化	4.0	0.05	
④	**地域材の活用**		（評価ポイント）		1.0
	Q3-4	地域の資源の活用と住文化の継承	1.0	0.05	

■重点項目スコア算出式
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
　重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用
　重点項目スコア＝$\dfrac{\text{（評価点×全体に対する重み）の総和}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用
　重点項目スコア＝(No.3.4.5のポイント数＋2)
　　※0ポイントの場合は1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称　環境共生型仮移転住宅

設計上の配慮事項	
総合	高い温熱性能や維持管理のしやすさ、将来の生活スタイルの変化にも耐えることを合理的に実現するよう積極的な設計をしている新しい住宅である。 その一方で地場産の木材を採用し、気候風土を考慮して設計された安城市らしさを引き継ぐ住宅となるよう設計をした。
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする	高い断熱性能を保持し地球環境にやさしく、経済的にも合理的な温熱環境を備えた住宅となるべく設計をした。
Q2 長く使い続ける	将来にわたって設備や内外装の維持管理がしやすいように、また居住者の生活スタイルの変化にも柔軟に躯体の構造・断熱性能を保ったまま対応できるよう設計をした。
Q3 まちなみ・生態系を豊かにする	国産材を構造や外装に積極的に採用し、外構は郷土種による植栽計画とし安城市ならではの住宅建築となるよう設計をした。
LR1 エネルギーと水を大切に使う	高い温熱性能を持った躯体や、効率の良い冷暖房や設備機器を採用することによって日々のエネルギーや水の消費をおさえることができる設計をした。
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす	設計時、生産時、施工時を通じて無駄のない方法を検討し、また再利用資源を活用することで総合的にゴミを減らすことができるよう設計・施工をする。 また、住まい手に対しても資源を大切にできる住まい方を提案することで、竣工後も環境にやさしい住宅として継続されていくように配慮をする。
LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する	高い温熱性能や維持管理のしやすい仕組みを考えることで建物のライフサイクルCO_2を減らす。また緑化面積を多くとることで豊かな住環境を周辺環境に提供する。
その他	室内温熱環境を快適にするため、また、自然エネルギーの有効利用としてOMソーラーシステムを設置している。